

会 議 録 (概要)

会議の名称	2019年度 第4回 佐渡市将来ビジョン等策定・推進会議												
開催日時	令和元年12月18日 午後1時30分から3時30分												
場所	市役所 本庁 3階 大会議室												
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 議題 第2次佐渡市将来ビジョン（素案） <ol style="list-style-type: none"> (1)第1章について (2)第2章について (3)第3章について (4)第4章について 4 閉会 												
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開												
出席者	<p>有識者 20名</p> <p>事務局：</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>市長</td> <td>三浦 基裕</td> </tr> <tr> <td>企画課 課長</td> <td>猪股 雄司</td> </tr> <tr> <td></td> <td>課長補佐 中川 裕二</td> </tr> <tr> <td>政策推進係 係長</td> <td>安藤 辰也</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主事 澤山 千明</td> </tr> <tr> <td>行革推進係 係長</td> <td>椎 俊介</td> </tr> </table>	市長	三浦 基裕	企画課 課長	猪股 雄司		課長補佐 中川 裕二	政策推進係 係長	安藤 辰也		主事 澤山 千明	行革推進係 係長	椎 俊介
市長	三浦 基裕												
企画課 課長	猪股 雄司												
	課長補佐 中川 裕二												
政策推進係 係長	安藤 辰也												
	主事 澤山 千明												
行革推進係 係長	椎 俊介												
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次佐渡市将来ビジョン 基本構想 191211時点案 ・第2次佐渡市将来ビジョン 基本計画 191211時点案 ・第2次佐渡市将来ビジョン 市民意見交換会の概要 ・第2次佐渡市将来ビジョン 191211時点の修正点一覧 ・第3回佐渡市将来ビジョン等策定・推進会議 会議録（概要） ・第1次佐渡市将来ビジョンの中間評価 ・ご意見提出用紙 												
傍聴人の数	4人（うち1人報道）												
備考													

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
中川課長補佐	（遅刻者、欠席者の報告）
座長	1. 開会
三浦市長	2. 市長あいさつ
安藤政策推進係長	3. 議題 3. (1) 基本構想（案）、基本計画（案）のそれぞれ第1章の概要について説明 修正点についてのアナウンス 「持続する循環型社会」→「持続する社会」
A氏	全体を通じて、この計画のプライオリティ、重点施策が何かわかりにくい。その他、この計画がどのような振返りに基づいて、今回の計画になったかというのが非常に読み取りにくい。また、財政計画の経済構造の弾力性を示す経常収支比率等の指標がないことが気がりである。
安藤政策推進係長	第1次の計画では、数値目標を設定しており、それについて中間報告を取りまとめている。議会報告後、皆様にお示ししたいと考えている。また、財政計画の経常収支率については、財政課と検討する。
座長	経常収支率については、今後掲載予定ということによいか。
安藤政策推進係長	データとしてはあるので、どのような形で掲載するかについて、財政課と検討する。
B氏	基本構想の4ページについて、令和2年度から令和6年度までが基本計画で、それ以降はPDCAサイクルにより見直すとのことだが、5年終わった後に、見直すということだと期間が長すぎるのではないか。1年ないし、半年程度のスパンでチェックをするほうが良いのではないか。
安藤政策推進係長	検証については、毎年行うことをこちらも考えている。計画の大きな見直しとしては、5年後を想定している。
中川課長補佐	こちらの表記が紛らわしいので、修正をする。

C氏	感想でもよいか。
座長	かまわない。
C氏	非常に整合性が取れており、よい内容になっていると思う。しかし、構成や計画の内容からすると、非常に良い出来であるが、他の地方でも通用するような内容のようにも感じ、私個人としては、トキと共生するや、伝統芸能のような佐渡の良さがもっと色濃くでるような計画であるともっとよかったなと思った。
座長	それは、文章としてか、それとも財政的な予算的にか。
C氏	どちらでもなく、方針、ビジョンとしてである。 あくまで、個人的な感想である。
座長	佐渡の特色がわかるような計画がよかったが、全体としてはよくできているということでよいか。
C氏	そのとおりである。 また、次は意見であるが、3つある。 1つ目は、7月会議においても話したが、基本計画の最後にアンケートが掲載されているが、このアンケート結果をどのように受け止めて、今回の策定にどのように活かしたかという説明がないため、明確に文章化して掲載するべきである。これは意見交換会の意見についても同様である。 2つ目は、今回第2次ビジョンである。これが、今回最初にできたものであれば、よくできていると思うが、1次を受けて、これがあるのであれば、1次をどのように総括し、どこを継続し、どこを修正したのかという説明がやはり冒頭に必要であると思う。 3つ目は、基本理念、将来像の関連、強調したい方策等との関連について説明がほしい。また、これらがどのように絡み合っているのかというのわかるようにグラウンドデザインないし、図式化され、わかるようにしたほうがいいのではないか。
座長	以上3点について、まだ修正が可能か。
中川課長補佐	まず、アンケートについて、以前平成29年度にも同じ設問でアンケートを取らせてもらったが、この結果を今ご意見頂いたように、どこに反映したかわかるような説明を入れたいと思う。

	<p>2点目の第1次の評価についてだが、現ビジョンは、本年度末まで継続中のものであるため、現在中間評価という形で集約をさせてもらっているので、本日の会議終了後までに資料を配布したい。</p> <p>3点目については、強調したい方策等がどこに関連しているのか、また、これらが、一目で見てわかるようにしたらいいというご意見でよかったか。</p>
C氏	<p>図式化、イラスト化といえはよいのか、体系図、フローチャートのよ うなものがあつたほうがわかりやすいのではないかと 思っている。</p>
中川課長補佐	<p>体系図のようなものを表記したいと思う。</p>
D氏	<p>市民意見交換会の中でも、今まで「大豆は失敗したじゃないか」のよ うないやみもあつたが。GIAHSに認定されていること、持続可能を押し 出すというときには、農業をもっと強く押し出すべきである。商工業 については、儲からなければ引き上げてしまう。儲からなければ辞め てしまうようなものではなく、GIAHSもあるということで、農業を基盤 としたあり方しかないのではないかと私は考えている。現在は農業公 社のおかげもあるのか人数も増えている。昔から金がでなくても、南 部が生活できてきたのは、農業のおかげである。なので、もう少し農 業をしっかりと捉えてもらい、体制づくり等をしてもらいたい。今日 も、農業だけでとどまっているだけではなく、新商品の開発も考えて いて、その話し合いをしてきたところである。これを常に行っていけ れば、佐渡らしい発展につながるのではないかと思う。自然を活用し た佐渡らしい方法での発展が望ましい。</p>
座長	<p>少し時間が押しているので、また意見があつた場合には最後に時間を とるため、いったん第2章へ進ませてもらおう。</p>
安藤政策推進係長	<p>3－(2) 第2章について説明 基本構想は、7ページ、基本計画は、3ページから。</p>
座長	<p>安心して暮らせる社会というこの部分について何か意見はあるか。</p>
A氏	<p>まず構想の10ページに、過去災害において、行政機能のほうに課題が あつた。内閣府が発表した防災白書のなかで、自助が7割、共助が2 割、行政は数パーセントであるという記述があつた。佐渡市のなかで もこの部分について、データがあつたほうがいいのではないかと思っ ている。</p>

	次に、2点目になるが、基本計画の11ページから、ライフステージにおける切れ目のない支援の部分で、佐渡市については、他市からきた人からも、子育て環境がよい、助かっていると評価されており、佐渡市において、誇れる政策であるということで、今後も進化であったり、さらにブラッシュアップをかけてほしい。 子どもが夕食を1人で食べている世帯がどのくらいあるかという調査はしているか。いっぱいあるというふうに聞いているが、市のほうでこのような状況の分析は行っているのか。行政と地域の共存ではないが、市としてはどのように考えているのか。
安藤政策推進係長	担当課に確認する。
中川課長補佐	恐らく、1人でご飯を食べている子の数というのは調査をしていないと思うが、この点についても担当課に確認する。
E氏	17ページに「文化財公開施設」と記述があるが、これはどのようなものを考えているのか。
安藤政策推進係長	担当課との打合せの中では、博物館・資料館のことを意味していたと記憶している。
E氏	この「文化財公開施設」というと、現在県内では、新潟県立歴史博物館と新潟県立近代美術館の2箇所だけだったと思う。というのは、平成7年頃に、文化庁が、文化財の公開に関する指針を示しており、非常に厳しいものである。佐渡は、文化の島であるため、所有者以外が重要文化財を公開できる機会というのが当然必要となってくるような気もする。私はこの書きぶりをみると、文化庁の示した指針に添うものなのかと誤って思ってしまうので、言葉の意味を確認してもらいたい。
安藤政策推進係長	確認する。
座長	他に意見があるか。
F氏	防災に関することで聞きたい。11月末に新穂で津波に関するセミナーがあり、そこで、佐渡への津波の影響が、地域別に資料があった。海岸沿いに施設もあるが、まだ避難道ができていないところ等もある。市民にもっと防災意識を高めてほしいなど思っているため、佐渡テレビで放送する等、防災意識を高めるような広報をしてほしい。

中川課長補佐	普及啓発に努めていくべきたというご意見でよかったか。
座長	そのとおりである。
G氏	前回の会議において、多様性という話を少しさせてもらったが、佐渡にも外国人移住者のかたはたくさんいるなかで、防災や生活環境等の整備は重要である。この計画は非常に日本人向けのように感じる。これから日本の総人口が減少していく中で、実際に佐渡にいる外国の方に対する対応をしっかりとしないと、災害のときに言葉がわからない等の弱い部分があると思う。この部分は、他の自治体よりも遅れていると感じている。
中川課長補佐	私たちは、この計画を日本人・外国人と分けて作成していることはなく、佐渡に住んでいる方を考えて作成している。ただ、外国人観光客の方等を意識した文章は必要かと思うので、そのような内容が読み取れるよう表現を検討したい。
A氏	外国人労働者の確保について、私は7ページの外部人材確保というなかにも、外国人の方も含まれていると拡大解釈をしていた。私の自治会には職人も含め、外国人の方が多く住んでいるので、ハザードマップも外国語版を作成したり、地域の行事にお誘いする等、地域で様々な取組を行っているなかで、佐渡市にも数多く協力してもらっていて、佐渡市で外国人の方向けの取組が行われているなという時間はとてもある。
G氏	文言として表記するかが重要なのではないかと私は考えている。
H氏	子育てについて、佐渡市ではよくやっているという評価を頂いたが、子ども子育て支援会議において、子どものことについては、ここよりも深い話し合いが行われている。しかし、SNSでの誘拐や学力の低下等課題はあり、これらの課題については、家庭で話し合いをもつような働きかけをしてほしい。 1点ミスプリだと思うが、14ページに重複している文言があるため、削除をお願いしたい。
中川課長補佐	ミスプリについて修正します。ご指摘ありがとうございます。 家庭での話し合いについては、子ども若者課の計画も来年時期計画が策定されるということで、双方に反映されるようにしたいと思う。

F氏	基本計画の5ページの一生涯に渡ると表記されているが、これで間違いはないか。
中川課長補佐	ひらがなへ修正したいと思う。
座長	時間の関係もあり、申し訳ないが次の話題へ移らせてもらう。
安藤政策推進係長	3-(3) 第3章について説明 基本構想は、11ページ、基本計画は27ページから。
A氏	プロペラ機を想定しているような書きぶりだが、何故、当初からジェット機を導入しなかったのか。
三浦市長	離発着可能なというのは、現状の佐渡空港の890メートルの滑走路でも離発着することができる飛行機をATR社が開発することを発表し、それが、現空港においても利用できる48人乗り最大のものである。ジェット機だと滑走路の2000メートル化が必須であり、まずは現空路でも離発着可能な機種を導入し、いち早く定期空路を再開したいと県と考えている。 羽田空港については、5年に1度見直し調整があり、プロペラ機進入については、何度か打診しているが今まで許可が下りたことがない。 しかし、今までのような8人、10人乗りというものではないため、その点については、県と連携しながら話し合いを進めたいと考えているし、新潟佐渡間にとどまらず、関西圏も含めた定期航路作りを進めたいというのが現状である。
D氏	空路については、そのまま頑張ってもらえればと思う。 航路についてだが、両泊航路について、議会等でも何とかしようというような発言はないのか。
三浦市長	昨年で船は止まり、今年の5月だったかと思うが、国の航路としてもこの赤泊寺泊航路は廃止となった。そのため、定期航路としては現在存在していないため、再開ということはなく、再び船を走らせるには改めて航路申請が必要である。
D氏	議会で再開等について発言はまったくできないのか。
三浦市長	ない。そして、すでに廃止になってしまったため、再開という言葉も使えない。もし再度定期航路としてやるとするとゼロから新たな航路

	設定を行う必要がある。臨時便・チャーター便のようなものであれば大丈夫である。
D氏	直江津小木航路も危ないという噂を聞いたが、それについてはどのようなか。
三浦市長	大赤字であることは間違いないが、新潟両津、直江津小木というのは国道であり、ここについては、県も佐渡市も国も存続前提で動いている。
L氏	61 ページの島内交通について、新潟交通佐渡なのはわかっているが、島内で、スイカ等の交通系 IC カードは利用できるようにならないのか。若者のなかで不便という声がある。チャージできる場所もない。また、観光客についても佐渡へ来た際に、普段は IC カードを利用しており、小銭など持ち歩かないのに、佐渡へくると小銭がないとバスに乗れない。つまらないところでつまずいているように感じる。
三浦市長	新潟交通佐渡さんも含め、キャッシュレス化の話し合いはさせてもらっているが、残念ながら現状新潟交通佐渡さんでは導入の予定はないと聞いている。
L氏	運賃割引の実施等も大切だが、それよりもキャッシュレス化に取り組んだほうがいいのではないかと考えている。
G氏	現状について、スイカやイコカのようなルートカードが、新潟市内等では利用されているが、あの端末は導入するのになかなか費用がかかり、相談しているなかで、なんとかキャッシュレスを進めるにあたり、だっちゃコインというものを導入したが、だっちゃコインは活用しにくいかもしれないが、例えば QR コードを利用したキャッシュレス化であれば、導入も可能なのではないかと話しているところである。
G氏	58 ページの地域連携のところ、島内交通も含め、高速バス等もあるため、バス事業者を加えていただきたい。インバウンドの誘客もバス事業者が頑張っているの、ぜひ検討していただきたい。
中川課長補佐	おっしゃる通り、島外業者のことをここは表しているため、わかるような表記に修正したいと思っている。
G氏	文言の関係で、できれば「ゴールデンルートからの誘客」まで、踏み

	<p>込んで表現してもらいたい。それは観光庁の方針にもなっている。</p>
中川課長補佐	<p>「ゴールデンルート」と表記できると断言できないが、ここについては、観光振興課を含め、協議させてもらいたい。</p>
H氏	<p>釣り客についてである。おもてなしに取り組んでいていいことであるが、来る側のマナーや安全管理は行わなければいけないと思う。魚業者の方と観光業者の方が話し合えるような場があるか。</p>
中川課長補佐	<p>市役所と直接釣り客の方とのやりとりは薄い、漁業者の方や釣具屋さんとのやり取りは出来るかと思う。ビジョンに明記できるかはわからないが、長期滞在に関わる方だと思っている。</p>
G氏	<p>県の港湾、有漁船関係者等と打合せは行わせてもらっている。常に随時調整させてもらっているような形である。</p>
I氏	<p>釣りの話であるが、現在市営の漁港等には柵等設けているが、魚が捕れると、柵を乗り越えて魚を釣りにいってしまうという現状もある。県の事業で大型漁礁もあり、地元漁師は侵入を自粛しているが、新潟のほうからプレジャーボートがきて、魚を取っていったりということもあり、地元もつらい思いをしている。ただ、今年3月に新たな魚漁法ができ、どのように運営されるかについてはわかっていない。会議等に参加してくる人はマナーをそもそも守れる人が多いため、そうではない人に対し、どのような対策をとるかは考える必要があると思う。</p>
座長	<p>意見がなければ、次に移りたいと思う。</p>
安藤政策推進係長	<p>3 - (4) 第4章について説明 基本計画 65 ページから</p>
A氏	<p>後ほど、書面でも渡したいと思っているが、72ページの定員管理と給与の適正化について、話しを聞くところによると、佐渡市はこの定員管理の部分に臨時職員はカウントされていないと聞く。恒常的に雇っている臨時職員についても、仮に事業費に入っていると、市の経常収支率を計算するとき、人件費は少なくなり、それが事業費のほうに入っていることになると、実態を表していると言えるのかどうか。考え方等あれば、聞かせてほしい。</p>

座長	回答できそうか。できなければ、持ち帰るか。
中川課長補佐	持ち帰って、確認する。 1点だけ、国の制度が来年度から変わり、会計年度任用職員制度がはじまる。今までは、確かに事業費であったが、春からは臨時職員のかたも人件費に含まれることになるかと思うが確認し、また別で報告をさせてほしい。
A氏	財源というのは無尽蔵にあるものではないので、この点についても協議が必要であると思っている。
F氏	聞いてみたいと思っていたのだが、常勤的な臨時さんの数は何名ほどか。
猪股企画課長	正確な数字を覚えていなくて申し訳ないが、フルタイムのかたが約500名ほどいたと記憶している。 今後は、給与だけではなく、賞与も発生するため、来年度は人件費が数字として大きくなることが想定される。パートタイムについても取り扱いが若干変化してくるのではないかと思う。
C氏	66ページのグラフについて、未来のものしかないが、過去の状況も掲載したほうが良いのではないかと思う。
安藤政策推進係長	担当課と確認して、どのような載せ方にするか相談する。
J氏	前回のビジョンで、公営企業会計が280名と書いてあったかと思うが、250名になっている。これはどのような原理か。
安藤政策推進係長	確認させてもらう。
座長	全体を通して意見はないか。
G氏	41ページについて、空き家活用の具体例がここぐらいしかないが空き家は非常に多いので、「空き家に関する適切な情報公開」のような文言がもう少しあってもいいように思う。
座長	以前はどこかに空き家について情報を公開していたような気がするが、現状はないのか。

中川課長補佐	HP 等で現在も公開はしているが、詳細までは掲載されていない。また、マッチングがまだまだ弱いとは思っているので、ビジョンに書くかは断言できないが、取り組んでいかなければいけないと考えている。
座長	ビジョンに書き込むかどうかでいうと、少し細かいさらにこれよりも下の部分に該当するようなもののような気がする。しかし、大切なことではあるのでぜひ今後も協議を進めてもらいたい。
G氏	20 ページに部分は、空き家と書いてあるが、触れられていないように感じるので、何か文言を入れられたら良いのではないかと思う。
K氏	第1次を踏襲した第2次将来ビジョンと認識しているが、基本計画の目標の部分に継続しているものに関しては、H25年等過去の数値もいれたほうが、わかりやすいのではないかと思う。 また、一団体、一自治体、一企業のみではやっていけないと思うので、産官学金が連携をし、スピード感をもって取り組んでいく必要があると感じているので、そのような場を設けてもらえたらと思う。
中川課長補佐	ありがとうございます。
座長	長時間にわたり、各分野からのご意見をありがとうございました。これらを議会へ説明し、修正し、2月に再度会議で集まれるのかなと思っています。